

# DOYOU

さいたま

同友会の三つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす



(株)ビジネスサポート(浦和地区会)

## 嶺山 大

MINEYAMA FUTOSHI

親しみやすく、爽やかな笑顔が印象的な嶺山氏。販売管理システムの開発・販売等を行う(株)ビジネスサポートの2代目経営者です。

創業者である父の想いを受け継ぎ、未来を切り拓くために日々奮闘する若手社長の経営観を紐解きます。

(P5へ続く)

埼玉の元気を創る中小企業家 - 106

【経営理念】

お客様には「満足」を  
協業様とは「共生」を  
全社員には「やりがい」を

2019 - 3 March  
VOL. 493 毎月1日発行

特集

同友会の目指す地域づくりのために  
政策PTリーダーに聞く  
～政策問題プロジェクトは何を目指し、何をしているのか?～

<http://www.saitama.doyu.jp>

社長の<sup>®</sup>  
学校

# 同友会の目指す地域づくりのために 政策PTリーダーに聞く!!

## ～政策問題プロジェクトは何を目指し、何をしているのか?～

- 政策PTリーダー／新井 俊雄氏  
(株)アライ 代表取締役 川口地区会)
- 補足説明 政策PTメンバー／米山 正樹氏  
(プラスワン労務事務所 川口地区会)
- 聞き手／酒井 啓 (広報委員会)
- 記 録／矢澤 敦臣 (広報委員会)

政策問題プロジェクト(以下政策PT)は全県経営研究集会(全研)や幹事会の資料等でも頻繁に見かけます。その名称から、何かの政策に絡んでいたり、政策の問題点を見付けて対策を実施しているのではないかと推測するのですが、なんだか選ばれた人達だけによる秘密の政策会議のようなイメージを持たれる方もいるのではないのでしょうか。そこで、広報委員会では、元埼玉同友会代表理事でもあり、政策PTリーダーの新井俊雄氏にお話を伺いました。

### 政策PTは以前からあったものなのでしょうか?

政策プロジェクトチームは、1982年からある政策委員会の継承で過去には「金融アセスメント法」の署名活動をはじめとする政策に関わる運動をしています。その後、委員会は一度解散となり、後に正副代表理事が中心となり、政策提言などを行う、政策PTとして活動をしてきました。また、近年では2010年に閣議決定された「中小企業憲章」にも深く関わっています。

### 政策PTでは現在何を行っているのでしょうか?

新井氏:政策PTで進めている主な案件は、①県への政策提言、②景況調査、③中小企業応援サミット、④全研での分科会



▲取材風景～写真左から、矢澤氏、新井氏、米山氏。手前、酒井氏

担当、⑤県総会の議案書作成などです。

政策提言では、我々中小企業が置かれている経営環境や望んでいることを埼玉県産業労働部に対して経営者の生の声として直接伝えていきます。毎年次年度予算編成前の9月～10月ごろ行われ、何を政策提言するかについては、各地区幹事会、委員会等から広く要望を集めるようにしています。

景況調査は、各社の実際の状況を調べるため年2回、会員全員にアンケートのご協力をお願いしています。景況分析は神奈川同友会と同じ玉川大学助教授に依頼しており、このことで、専門的に分析してもらうことと、定点観測をしていくことを目的としています。今後は首都圏全体の景況分析にも繋げることができないかと模索中です。

中小企業応援サミットは3年前から行うようになった、行政との連携シンポジウムで、県下の市町村の中小企業振興条例づくり推進につながるものになると確信しています。

## <中小企業振興基本条例>

—全国の動き、埼玉の現状—

埼玉同友会 副代表理事  
政策PT / 大宮東地区会 **沼田道孝**



同友会は、「中小企業憲章・条例推進ハンドブック」で「日本でも独自の憲章を制定して日本経済の再生と新たな発展を目指すべきである」と考え、2003年から国での中小企業憲章制定と地方自治体での中小企業振興基本条例の制定を活動方針に掲

げて取り組んできました。」と書いています。その運動の成果が、2010年6月に中小企業憲章の閣議決定に結実し、昨今の地方経済の厳しい現状も反映して、中小企業振興基本条例は46道府県、407市区町村(2018年12月現在)にまで広がってきています。

埼玉県は、全国に先駆けて一番に、2002年「埼玉県中小企業基本条例」を制定し、2012年に改訂を行っています。さらに2017年には「埼玉県小規模企業振興基本条例」を制定し、議会が中心ですが取り組まれています。しかしながら、同友会の取り組みでこの条例を効果的に活用するための、中小企業家が参加する「振興会議」の設置や中



その他、県総会の草案、議案書づくりにも関わり、政策プロジェクトチームのメンバーから中同協の憲章・条例推進会議にも出席しています。

**政策PTの活動をしてきてどのような成果が現れていますか**

元々私が代表理事になる前から埼玉同友会は行政と繋がりをもっていました。しかし当時は政策においては、単に県の担当者から県が行っている政策とはどんなものかを聞きに行くだけでした。しかし、聞くだけでなく要望を伝えることが大事でさらにこちらの声を伝えることが必要であるという流れで政策PTが発足しました。現在の政策提言では、埼玉県の各部の課長クラスも参加してくれるようになり、活発な意見交換ができる場となっています。

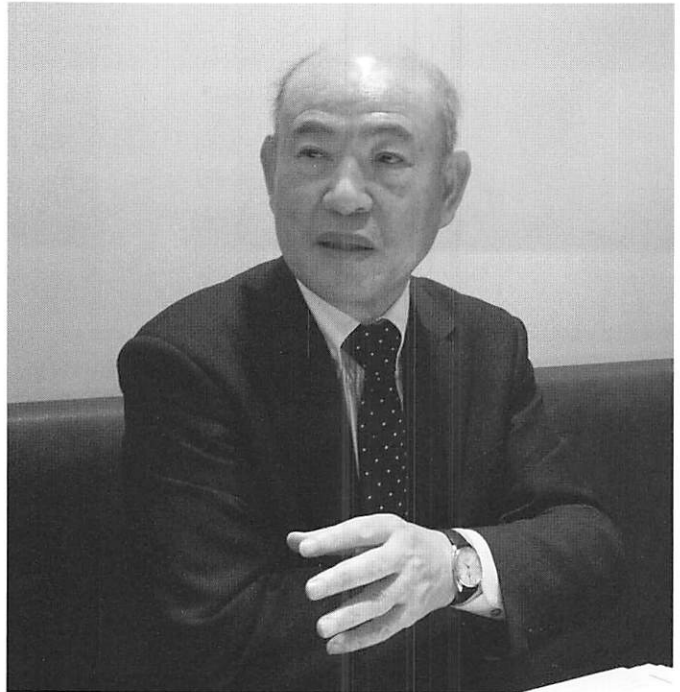
**政策PTの課題、問題点は何ですか？**

景況調査のアンケートが集まらないことです。自分達で直接行うアンケート結果は、そのままストレートに中小企業の現状を伝えることができるし、自社の置かれた位置を把握するのに役立つはずですが。

我々の現状を伝えていくには、300件以上の回収率でなければ、数字に対する信頼性が保たれません。現在の回答数は200件にも及ばない水準ですが、少なくとも300件以上の回答を得られることが持続するためには必要だと考えています。集計結果と内容によっては新聞や雑誌等のメディアにも取りあげられるようになり、同友会の存在価値も高まっていくのではないかと考えます。現に東京同友会では景況調査をもとにした、記者懇談会を定期的に開催しています。愛知同友会も毎回800件程度の回答を得られていると聞いていますし、報道関係からは「中小企業の現状を知るなら同友会に聞け」というぐらいの信頼を得ているそうです。ぜひ埼玉同友会の会員にも、なぜ景況調査に取り組んでいるのかということを理解いただき、かならず回答に協力して頂きたいと思っています。

**政策PTの更なる活性化に向けた戦略はありますか？**

埼玉同友会の政策PTは閉じられた組織ではなく、誰でも参加OKのオープンな組織です。そうはいつても、県への提言・要望という、難しいことを話し合うというイメージもあり、実



際にはベテラン会員の一部が集まり運営してきたという面があります。しかし、こうしたメンバーの偏りは、地域の偏りにもつながり、現実に即したものにならない場合もあるのではと危惧されます。

また、埼玉の景況と言っても、同じ埼玉でも北と南では地域特性がかなり違い、多様な知見、意見が必要になってきます。県下広くから会員からの情報収集、協力が必要です。そこで2019年度はプロジェクトから委員会に昇格させ、各地区会から担当委員を出してくれる体制にしたいと思っています。またそういう声も多く聞いています。政策委員会にとって今年は大きな飛躍の年になるのではと思います。

最後に景況調査に関しては、実施後にその重要性を伝えていくことや分析した結果のわかりやすい見方を会員に伝えていくために、広報委員会との連携が大切になっていくと考えています。ぜひ今後は協力をお願いしたいと思っています。

**政策PTについて、今後広報委員会としても連携していきたいと思っています。今日はありがとうございました。**



小企業の実態調査などを「政策要望」で交渉していますが実現していません。市町村のレベルでは、中同協が把握している「理念型・政策総合型」の振興条例は、八潮市、秩父市、春日部市、行田市、川口市、戸田市、深谷市、富士見市、宮代町、川越市、久喜市、吉川市と12市町村になっています。戸田市、久喜市、吉川市では「振興会議」に同友会会員が参加し、吉川市では中心になって進めています。また、本庄市では会員も加わって振興条例の作成が進んでいます。

より多くの市町村で振興条例を広げ、さらには振興条例を活用して、地域の特徴を生かして私たちが主役の地域づくりで産業の活性化を図っていくことが求められます。

それぞれの行政でも、どのように地域づくりと中小企業の活躍、雇用や産業の活性化を進めるかイメージができていません。吉川市が展望するように子供たちの育ちと教育、中小企業を中心とした産業が吉川市の未来をつくと指摘していましたが、その期待に応えて各地での振興条例づくりのために行政との信頼関係を作っていくことが求められています。



運動の原点がわかるハンドブック。実践事例も多く掲載され読みやすい。



## 《中小企業振興条例実践事例》大阪府八尾市

振興条例を絵に描いた餅にしない  
そのために中小企業の意識改革と  
振興会議の活発化を

埼玉で昨年12月に行われた全研、第1分科会での藤原義春氏(株式会社藤原電子工業代表取締役、大阪同友会前副代表理事)の報告をもとに、中小企業振興条例を考えてみましょう。

埼玉同友会 副代表理事  
政策PT/川口地区会 **米山正樹**



条例はできたが・・・

大阪府八尾市(やおし)は、大阪府中河内地域に位置する市で人口は約26万人。2001年、「八尾市中小企業地域経済振興基本条例」が制定されました。振興会議も設置され、新しい産業の創出を目指しました。中小企業の悩みを解決する「八尾市中小企業サポートセンター」も立ち上がりました。

前進しない理由がわかった!

ところが、5年くらいすると振興会議はマンネリ化に。条例制定を受けて制度化された補助金も、徐々に金額が減っていききました。振興会議のメンバーだった藤原氏は「条例ができて活性化すると思っていたのに何故?」と感じていましたが、次第にその理由がわかってきたそうです。それは、中小企業の側からの提案の少なさ。毎年数件、しかも決まった企業しか補助金の申請をしてこない。そんな中での補助金額の下方修正でした。市産業政策課、サポートセンターの思いに対して、中小企業が受身では、せっかく振興条例があっても、それを活用できないのだということを感じたそうです。

「現状を変えなければ」藤原氏の思いは振興会議メンバーに広がり、2008年に条例の改定議論が始まりました。条例本文からは、理念がどこなのかわからず真髓が伝わらない、八尾市の将来像も見えてこない。だから、中小企業は受身姿勢から脱却できない。振興会議では、話し合いの中で、条例に



▲藤原氏の全研での報告は埼玉の会員に大きな刺激となった

大きな修正を加えていきました。その結果、2011年に改定された振興条例では、前文に「働きがい、生きがいを持てる街」「住みたい、暮らしたい街づくり」、目的に「にぎわいのある街づくり」

「市民、行政、企業との信頼関係の構築」が明記され、併せて、財政的措置や産業振興会議の位置づけもはっきりしました。

条例ができただけでは変わらない

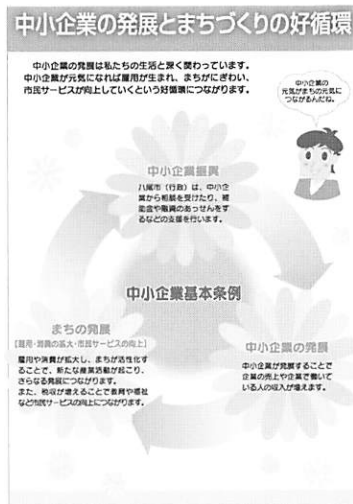
2011年に振興条例が改定されてから活発化したという八尾市。活発化に必要なこととは何でしょうか。今回の藤原氏の報告を受けて感じたことは、振興条例があっても、待っているだけではダメだということ。「条例ができたなら何が変わるのか?」という声を耳にすることがありますが、できただけでは何も変わらない。「何かもってきてください、そうしたら検討します」といった受身では自社も地域もよくなる、ということでした。

条例改定後、八尾市では実験的な取り組みも始まったそうです。中小企業が集まり「ものづくり部会」を立ち上げ、事業領域を広げる活動、新規事業を立ち上げる活動を自ら行ってきたことの成果は、水を使わない足湯(商品名「湯っ太郎」)などを企業連携の中から誕生させました。製造業が苦手

とするところを、サービス業の方や市民の方との連携で補いながら作り出していったそうです。「自立できる企業が集まれば、地域を変えることができる、その要となるのが条例!」だと話す藤原氏の言葉が強く残りました。

全研第1分科会に参加して学んだ、もう一つの大事なポイントに、自社と振興条例を切り離して考えない、ということがありました。同友会「三つの目的」の三つ目にある「よい経営環境をつくる」とは、地域に必要な会社をつくること、自社が存続する道であると同時に、そのことで地域づくりにも貢献できる、という視点。このことを再認識できた、とてもよい機会になりました。

※DOYOUさいたま2月号全研特集の第1分科会報告記事も併せてご覧ください。



▲八尾市中小企業地域経済振興基本条例が掲載されたHP

埼玉の元気を創る 中小企業家

(株)ビジネスサポート(浦和地区会)

埼玉県さいたま市南区南浦和2-11-16

TEL:048-886-9141 FAX:048-811-3021

<http://bs-saitama.jp>



### 事業承継まで

嶺山氏は、(株)ビジネスサポートに入社する前は、大手企業でシステム営業を担当し、充実した日々を送っていたそうです。

あるとき、創業者の父から「そろそろ(事業承継を)考えてみないか」と意外な言葉をかけられます。というのも「会社は継がない」というのが父と嶺山氏の共通認識だったから。これまでの人生で父から歩み寄ってくることはほとんどなかったそうです。

この一言に嶺山氏の心が揺さぶられます。「20年以上、会社経営を続けるのは本当に大変なこと。尊敬する父と社員さんのためにもこの会社を継ぐのは自分しかないのでは」と意を決し、2016年4月に入社します。

当初は、ある程度の時間をかけて徐々に社長業を受け継ぐ予定が、入社して半年あまりで持病の悪化もあり父が他界。2016年11月に代表取締役役に就任します。この時「社員とそのご家族を路頭に迷わせるわけにはいかない」と腹をくくったそうです。

### 同友会との出会いと経営指針づくりセミナー受講

事業承継後、中小企業経営者としての「あり方」が分からず東奔西走する日々の中で、同友会と出会います。「父から『そろそろ同友会に行って経営を学んだらどうか』と提案をされていたところでした。父の死を知った当時の三角地区会長が、会社を訪れ『一緒に経営を勉強してみないか』とのお誘いをいただきました。これをきっかけに同友会に参加するようになりました」

例会などで学ぶ中で、自分自身の甘さに気づき「会社に対する想いが足りないのかもしれない」と思い悩んでいたところ、経営指針づくりセミナーの存在を知り早速参加します。

「何のために経営をするのか。これを考える時間が無いままの社長就任だったので、この機会に改めて自分自身と真剣に向き合い、スタッフの方々のサポートを受けながら深められたのがよかったです」

今の経営理念は創業者の父が作ったもの。同友会での学びを深めると同時にこの経営理念が的を射ていることにも気づいたとのこと。「今後はこれを社とし、父の創業の想いを受け継ぎつつ、80年、100年と存続する強い会社とするために、社員と一緒に経営理念を考えていきたいです。今後は私のカラーも少しずつ出していきたいです」



▲嶺山氏 経営指針セミナーの発表会にて

### 社員に対する想い

「社員の8割は父の頃から当社にお勤めいただいています」と嶺山氏。「私には父のような豪傑さや求心力はありませんが、時には厳しく時には優しく、社長として接してくれ、サポートしていただいています。感謝の言葉しかありません。社長になってからまだ誰も辞めていないのは私の誇りです」

### 今後の展望

「当社の強みは『社員』『地域密着』『開発力』の3つです」と嶺山氏は言い切ります。

中小企業にシステム担当者がいることは希で、システムはもとより、パソコンそのものの「使い方」に関する悩みや不満が多いとのこと。「導入したら終わりではなくお客様に寄り添う会社でありたい。とにかく、お客様にはシステムを使い倒していただきたいんです。そのためのサポート体制を強化していきたいです」

また、年に1回お客様とのバス旅行を実施しているとのこと。「2018年は益子焼をお客様と一緒に作りに行きました。お客様やそのご家族の方々と親睦ができるほか、お客様同士の横の繋がりができるのもいいですね」

「とにかく『人』が一番重要な当社の財産。社員が安心して働ける『場』を作るのが社長としての私の仕事です。これは経営指針を策定する中で気づき、やり遂げたいと決意しました」と嶺山氏。「80年、100年と会社が存続していけるように若い人材も採用していきたいです」との力強い言葉もありました。(浦和地区会 大森靖之 記)





# 趣味は家族優先でコツコツやっています



齋藤 幹人(川越地区会)  
悠幸保険代理店 店長  
川越市鯨井新田1-15 2F  
TEL:049-231-0326  
FAX:049-231-0031

川越市で保険代理店をやっている齋藤です。よろしくお願ひします。

元々は学校を出てから歯科技工士を3年ほどやっていた。それからアメリカに渡ってそこでも歯科技工士を数年間やっていた。保険代理店については父が営んでいた。帰国後に保険の資格を取り、他社で保険の仕事の勉強をしていた。しかし母が体調を崩して、父がその介護をするために引退をしたため、父の会社に戻り、今の保険代理店を引き継ぎました。

両親は共に健在で、特に父は仕事もほぼ引退して、趣味の社交ダンスや民謡、カラオケや卓球のサークル活動など、悠々自適のうらやましい日々を送っています。

そんな私の趣味はランニングと献血。それに年数回の家族旅行です。

今は奥さんの実家の近くに住んでいます。家族は奥さんと子供の3人で、子供は3歳になります。子供はまだ小さいのでどうしても子供中心の生活になっています。だから、趣味についても子育てに支障が出ない範囲で行っています。

10年ほど前から、地域のマラソン大会に参加するようになりました。しかし、初めて参加したマラソンで足首を捻挫して、自分の体力が落ちているのにびっくりしました。これはイカンと思い、週1回程度ですが、家の近所を3キロ程ランニングするようになりました。最初のうちは体力作りと健康のためと思い辛かったのですが、徐々に慣れてくると楽しく走れるようになりました。よくランニングをしている人から「慣れてくると楽しいよ」と聞いていたのですが、「自分はそんな事ある訳ない」と思っていたので、この変化には自分でもビックリしています。

献血者のお知りませ		献血者の性別別献血量		献血者の年齢別献血量		献血者の職業別献血量	
性別	献血量	年齢	献血量	職業	献血量	職業	献血量
男性	4.0mL	100.06.30	300.02.24	100.10.20	100.05.28	100.05.28	100.05.28
女性	4.0mL	4.0mL	4.0mL	4.0mL	4.0mL	4.0mL	4.0mL
合計	8.0	15	15	15	15	15	15
年齢別							
10代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
20代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
30代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
40代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
50代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
60代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
70代	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
職業別							
学生	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
会社員	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
公務員	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
自営業	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
無職	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
その他	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

献血での検査表  
健康チェックにも



また、ランニングを始めるようになった頃から、年に3回献血をするようになりました。

献血をする人は分かると思うのですが、献血をする度にその時の血液検査のデータが送られてきます。

ランニングを続けていると、徐々に血液検査のデータも良くなっていくのが数値として出てくるので非常に励みになっています。

献血はその時の体調や食べたものによっても変化します。よくテレビでやってる健康にいい食べ物とかを食べた後に、献血の数値をチェックして改善されていたりするので面白いし、健康管理にも役に立っています。健康維持と社会貢献もできるので皆さんにもお勧めです。

そして、もう一つの趣味が旅行です。学生の頃は東南アジア、結婚してから子供が生まれる前まではアメリカやヨーロッパにも年に1回程度、旅行に行っていました。行った先々でのその国の文化に接したり、その土地の味付けの食べ物を食べるのが楽しみでした。

今は家族もいますので、子供の負担にならないように国内旅行が中心で、奥さんも働いているので、奥さんの出張に予定を合わせて旅行に行っています。旅行先でおいしい物を探して食べるのが奥さんとの共通の趣味になります。最近は国内にも世界遺産が増えてきたので、そういった所を巡るのが楽しみになっています。ただ、旅行については子供が大きくなるまで現状維持で、暫くの間、海外旅行はお預けになりそうです。



## 2019.1.28「情報交換&交流会」 ～特別支援学校・同友会～

障害者雇用推進委員会では、埼玉県の特別支援学校と、お互いの知りたい情報を交換し今後障害者の職場体験実習の受入れや障害者雇用を考えるきっかけ作りのために交流会を毎年開催しています。今回で4回目の開催となり、学校より16名、企業より18名が参加しました。



交流会では、特別支援学校より教育課程や進路指導のシステムの説明と、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターより障害者雇用にあたっての企業へのサポートの説明があり、その後企業、学校がお互いの知りたいことなどをトークセッションしました。

### 参加者アンケート

- ◎ディスカッション形式で企業の方が思う障害者像と支援学校側でギャップがあると感じました。私たちはより地域の企業様に伝えられればと思いました。
- ◎特別支援学校は、障害の種類、レベル等それぞれ違うことを改めて確認できました。それぞれの特徴を理解することが必要で大切だと感じました。
- ◎企業と学校で質問・要望をぶつけあえる(意見交換できる)場は貴重で有意義だったと思います。

## 彩の国ビジネスアリーナ2019に 東彩地区会がブースを出展!

新たなビジネスチャンスを開創する場として開催され、大きな展示商談会でもあるビジネスアリーナ。今回は、東彩地区会が「埼玉中小企業家同友会」としてブースを出すというので、取材に行ってきました。地区会メンバーが交代でブースに立ち、同友会の活動内容や例会案内を積極的にいきます。他地区の同友会仲間も応援に駆け付ける姿や、何より「同友会って、どうゆうかい??」と、足を止め、活動内容の説明に熱心に耳を傾ける方の姿も目にしました。




▲会員企業も自社ブースを出展

その場で「入会をしたい!」と、手を挙げる方や、例会に参加したい、同友会に興味を持った、など、東彩地区の増強活動が大きな成果をあげたとのこと。「ぜひ、このビジネスアリーナでの取り組みを県へと繋げ、東彩だけではなく、県全体で取り組んでいけたらいいのでは」との前向きな感想も。増強運動も多様な形を模索する中、東彩地区のこの取組は、その先陣をきった素晴らしい活動であると感じました。

(東彩地区会 藤元天美 記)



### [アンケートの結果を見る]

多くのアンケートは終了後に回答の結果を見ることができるようになっています。表示されたアンケートリストの右側にある  をクリックすると「アンケート回答アンケート-集計」ウィンドウが表示されます。

上部は「基本情報」でそのアンケートの回答者数や回答率。下部が各設問に対する回答数、回答率となります。

どちらにも「回答者一覧」ボタンがあり、実施されたアンケートや質問に対し誰が回答したかを見ることができます。さらに回答者一覧の上に、地区会や委員会を選択できるプルダウンボタンがありますので、地区会や委員会に絞っての回答者、回答数を見ることも可能ですし、誰がいつ回答したかもわかります。

定例のアンケートとしては年2回の景況調査があります。景況調査は中小企業庁でも行っていますが、同友会で言う調査は私たちが直面している現実の直接分析にも繋がり、本当に望むことを行政やメディアに伝えることのできる元となります。「うちは規模が小さいから景況状況には関係ない、役に立たない」ではなく、小さな情報でも集まることで、我々にとっても地域社会にとっても貴重な情報となるのではないのでしょうか。

(中部地区会 矢澤 敦臣 記)

## e.doyuの使い方

### アンケートに答えよう

e.doyuにはときどきアンケートが掲載されます。主に委員会や中同協、県からの要請で実施されるアンケートで、それぞれの活動をデータで支えるための重要な情報収集ツールとなるのですが、回答数は多くても20%ほど。有効な回答数を得られていないのが現状のようです。

### [アンケートの回答]

左側にある「アンケート回答」ボタンをクリックすると、掲載されたアンケートリストが表示されます。

「公開中」となっているアンケートのタイトルをクリックすると、アンケートの回答画面に変わります。

質問に対しクリック選択していただく。回答し終わったら、「確認」ボタンをクリックで回答した内容を確認。最後に「登録」ボタンで回答終了です。



アンケート - 回答者一覧			
広報委員会	キーワード		
名前	回答日時	会社	
電力イノベーション 福井 隆	2018/08/31 09:01	サイコウキ (株) 福井工機	
電力イノベーション 木下 隆史	2018/09/01 14:07	キンシタセイアン (株) 木下製船	
ユエチヨウ 三浦 隆史	2018/10/03 10:46	スカウトハウス (資) スカウトハウス	
タテノ 梅田 隆史	2018/09/14 14:54	メガネマーケット (株) メガネマーケット	

## 各地区会で開催された例会をご紹介します。

## 【戸田・蕨地区会 1月例会】

赤字経営から1億円のV字回復!  
～新社長の導入した数値の見える化～

報告者:小山展弘氏(泰清倉庫(株) 代表取締役社長)



2019年最初の例会は「ベンチマーク+報告」というボリューム溢れる内容でした。

始めに泰清倉庫(株)のベンチマークを行いました。同社の倉庫は出版物流に対応するため、保管と流通加工の機能を兼ね備えた立派な設備を有しています。また同社は、

倉庫の一区画を協業会社に利用させ賃貸収入を得るといった新たな業務も開始し、ベンチマーク参加者のみに公開していただきました。

報告では、数値の見える化の資料として、同社の従業員が作成した収支表を配布していただきました。緻密かつリアルな内容の収支表は、参加者の参考になったと思われる。この収支表により数値が明確になったため、従業員が会社の利益に関心を持つようになり、モチベーションが劇的に上がったとのこと。

しかし本当に大変なのは、数値の見える化により明確になった赤字部門をどう改善するか。小山氏によれば「ここが社長のふんばりどころ」、とのこと。グループ討論では「数値を見える化したときの、トップの決断とは」をテーマにし、活発な討論が行われました。

ベンチマークとリアルな資料の提供のお陰で、学び多い例会になりました。(峯岸孝浩 記)

## 【むさし野地区会 1月例会】

社員教育は強靱な組織づくりへのベストアプローチ!!  
～会社の成長の秘訣は社員の成長度にこそある～

報告者:増田恭章氏(CSリレーションズ(株) 代表取締役社長)



むさし野地区会1月例会は、東部地区会会員の増田恭章氏に報告頂きました。携帯電話販売というところでも同じ商品を売る為、人で差別化するしかない事業。戦略よりも実行!実行する組織があるか、実行する力が経営者にあるか、何よりも「実行力のある社員を育てる」と

いう強いメッセージがありました。また、組織発達のためには、未熟期・成長期・発展期と、組織を成長させていく上での状態を把握することが極めて重要であるとのこと。

以前まで文鎮型のフラット経営でしたが、今ではピラミッド型の経営が自社の組織に合っている事も失敗から気づいたそうです。

共同求人・経営指針を柱とし、1人1人と向き合い社員の後ろに親が居るといことも配慮しつつ社員教育をして行く。社長の信念は「継続、あきらめない」こととし、凡事徹底、コツコツと取り組む事が重要であり、ALLWINの理念を実現しながら、変化に強く常に革新を続けられる状態の組織を目指している実践報告でした。

(石井利典 記)

## 【東部地区会 1月例会】

福岡同友会から学ぶ  
～右肩上がりの会勢を誇る福岡同友会代表理事から  
発展のヒントをつかむ～報告者:樋口康治氏(株)アイル 代表取締役  
(一社)福岡県中小企業家同友会 代表理事)

▲中央が樋口氏。左はコーディネーター山崎氏。右は平林会長。

東部地区会1月例会として2019年新年会が親睦委員会の企画で1/17に行われました。

第1部に福岡同友会から樋口代表理事をお招

きして東部地区発展の為のヒントを探ります。

金儲けがしくて、つまり社長になりたかったから会社を始めた樋口氏。とんとん拍子に業績は上がり続けるも、ある時を境に廻らなくなる事態に陥りましたが、社員さんの頑張りを持ち直します。社員さんのために経営をしなければならぬ、そう気づかれた樋口氏は労使見解に向き合うようになったそうです。そういった数々の経験を同友会の運営にいかんなく発揮され、今もなお改革の中心となっています。

同友会は何をするところなの?根本的な疑問に真正面から取り組み、予算の使い方、事務局のあり方、事務局との向き合い方、地域づくりの重要性、経営指針等様々な問題に向き合いトライ&エラーを繰り返しながら、同友会で学んだことを実践して同友会に還元する同友会のPDCA、を愚直に積み重ねていくという、一番大切なことを年の初めに気付かせて頂きました。

第2部は大新年会となりました。入会間もない方、ゲスト参加された方からゴールド会の大ベテランの会員さんが垣根無く交われる東部が東部であるが所以の和やかな会となりました。(出雲武 記)



## 埼玉中小企業家同友会 2018年度 第5回理事会議事録

《2018年度スローガン》高い志を持って、企業づくり、地域づくり、同友会づくりへ挑もう  
女全交の成功を力に1200名達成を!!

◆日時:2019年1月25日(金)18:00～20:00

◆会場:ジャック大宮5F

◆司会・議長:小山副代表理事

◆議事録署名者:吉田副代表理事

◆議事録作成者:清水事務局長

### ・久賀代表理事挨拶

「現在人手不足のため、同友会の共同求人を通じて社員を採用していますがここに来て働き方改革とも相まって就職を受け入れる企業の体制について大変厳格になってきています。中同協からは全国どこでも一社でも基準に満たないで採用をしている事が分るとその他の企業に迷惑がかかるようになって聞かれています。自社の受け入れ体制について今一度確認していただけるよう御願います。

最後にここ数週間でインフルエンザが流行ってきていますので皆様、経営者として健康に留意して下さい。」

・参加費:20,000円くらい

・会場候補:大宮ソニック&パレス、ラフレさいたま&プリランテ 武蔵野、浦和ロイヤルパインズ

### 報告事項

#### 1. 全県経営研究集会決算報告(報告者:事務局清水)

12月11日に実施された全研の収支報告がされた。収入は410名換算実績、支出は3年連続で同一会場での開催で予測が可能だったことにより、ほぼ予算通りの実績だったと報告された。

### I. 議事(審議事項・協議事項・報告承認事項・連絡事項)

#### 審議事項

#### 1. 承認 2019年度全県経営研究集会の開催日程・会場に関する件

・開催日程:10月29日(火)、会場:大宮ソニックシティ、  
設営:大宮東・大宮中央地区会

#### 協議事項

#### 1. 第46回定時総会についての検討

(報告者:米山副代表理事・沼田副代表理事)

第46回定時総会を2019年4月20日(土)に新都心ビジネス交流プラザ4階で中部地区会の設営で昨年と同様の次第で第一部は総会、第二部は記念講演、第三部は懇親会の3部構成で開催する。記念講演に付いては交渉の結果、福岡同友会代表理事の田浦氏に決定した。今後詳細の打ち合わせを実施予定。

続いて第3回議案検討プロジェクト会議で討議した2018年度活動総括案及び2019年度活動方針案を沼田副代表理事が説明し、その後質疑応答を実施した。今後、議案検討プロジェクト及び正副代表理事会議にて修正し次月の理事会で協議する。

#### 2. 障害者問題全国交流会(障全交)の埼玉招致(開催)について(報告者:赤塚障害者雇用推進委員会委員長)

赤塚委員長より障全交を2021年に埼玉同友会設営で開催したいとの提案があり、①障全交の開催概要②障全交を埼玉中小企業家同友会で開催する理由③中同協障害者問題委員会における埼玉への期待④障全交を埼玉中小企業家同友会で開催することによる効果等が報告された。次月審議予定。  
・日程:2021年10月ごろ 木曜日の午後～金曜日の午前  
・参加者数:500名くらい(県外約300名+埼玉約200名)  
5～7分科会(見学込み)

#### 2. オープン学習会について:速報(報告者:吉田副代表理事)

オープン学習会は県内の会員に広く委員会の活動の趣旨を知ってもらう事と一人でも多く参加していただく為に実施している。2018年度は全8回の内、4回実施済み。2月に社員教育、障害者雇用推進委員会、3月に経営労働、ファムが実施予定。

#### 3. 政策問題プロジェクトより(報告者:三角(武)・新井理事)

3月に2018年度第2回目の景況調査を実施する。今回は集計結果を早く分析する為、回答期限を3月9日とし3月については予測になる。これにより早く会員に結果を周知する。

#### 4. 新入会員オリエンテーション開催報告

(報告者:高橋正副代表理事)

12月25日に第40回の新入会員オリエンテーションを開催した。参加人数は3名と少なかったが中身の濃いオリエンテーションになった。各地区は参加状況を確認の上、今後の参加促進を図っていただきたい。

#### 5. 委員長会議報告(報告者:吉田副代表理事)

1月18日に第4回委員長会議を開催した。2019年度の活動方針等の意見交換を実施したが委員会としてどんな活動をしていくか方向性を指し示す項目があっても良かったのではないかととの報告があった。

#### 6. その他(報告者:吉田副代表理事)

(1) 第49回中小企業問題全国研究集会in長崎

2019年2月21日(木)～22日(金)

参加目標10名、実績42名の参加

(2) 2019年度新理事研修会実施(予定)

日時:3月23日(土)10時～16時

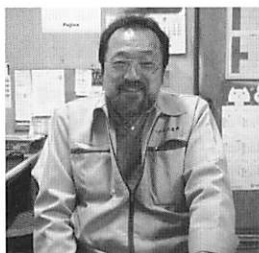
場所:新都心ビジネス交流プラザ

対象者:2019年度 新任理事候補者

# 企業訪問記

## (有) ユタカ工業所

代表取締役 鈴木 康三郎氏〈東部地区会〉



越谷にある本社工場で、配電盤や制御盤等を製造するユタカ工業所。工場見学にワクワクしながら、職人さんの卓越した技術を拝見し、モノづくり日本を垣間見た思いがしました。…が、設置された大型機械はドイツ製。ちょっと意外ですが機械物はやはりドイツ製がすぐれているのだそうです。

ユタカ工業所で扱う商品はすべてオーダーメイド商品だそうなので、注文個数が10個以上のことはまずないのだとか。同じ商品をリピートされることも半数以下なので、毎회가ゼロからのスタートを強いられる厳しい仕事です。「チャレンジ精神で、要望にお応えすべく頑張るしかない」と鈴木氏。熟練の職人技術には定評があり、加えて、充実した設備を活かしながらの、トライ&エラーの積み重ねの日々がそこにありました。

「4人兄弟の三番目だったのに、なぜか自分が継ぐ事になっ

### 会社概要

埼玉県越谷市大杉287  
資本金:600万円  
従業員:8名  
事業概要:金属加工、配電盤、分電盤等の函体製作  
URL:<http://yutakak.jp/>

てしまって」と笑う鈴木氏。現在は現場に6名、営業が1名の体制ですが、心強いのは息子さんが入社してくれたこと。得意なコンピューター関連の業務を担当し、将来の片腕として着々と成長される様子です。

そこに奥様やお嬢さんも加わり、家族のチームワークのよさも、温かな社内風土を作り出しています。

「今後は下請けから、自社ブランドをつくるのが夢ですね。経営指針セミナーを受講したことで、やっと自身が経営者であるという自覚も出てきました」と謙遜気味に語ります。売り上げは伸びても、同時に仕入れ価格も上昇する厳しい状況の中「大変でもあるけれど、一方でやりがいも感じています」。自社ブランドの誕生を楽しみに、ユタカ工業所を後にしました。  
(事務局 古川佳子 記)



## (有) ベストプラン

取締役 山崎 一樹氏〈中部地区会〉



(有)ベストプランの山崎氏は、学生時代のアルバイトの経験から自分で商売をしたいと思い始め、保険業界を選択し代理店を開業しました。現在22年目を迎え、7名の社員とお客様との対話を第一に「地域のよろず相談所のような保険屋さん」として地域に密着した

経営をしています。地域にも名前が周知され順調な経営の中、昨年5月、蓮田市に移転、自動車钣金・修理の新規事業を立ち上げました。

山崎氏は2013年に経営指針セミナーを受講以来ずっとスタッフとしてセミナーにかかわってきましたが、AIの進歩や保険業界の外部環境を考えると、10年ビジョンの思いをなかなか実行に移せなかったとのことでした。

立教大学の山口義行教授のセミナーに参加して、「隣接異業種」「新規性5%」という言葉を知り、保険の仕事に隣接したお客様の困ったに答える新たな事業として自動車钣金・修理業に挑戦して、自社を10年後も発展し続ける会社にした

### 会社概要

埼玉県蓮田市根金994-1  
資本金:300万円  
従業員:7名  
事業概要:保険代理業(生命、損害)、自動車钣金・修理  
URL:<http://www.bestplan-ageo.com>

いとこの思いが具体化し実現しました。

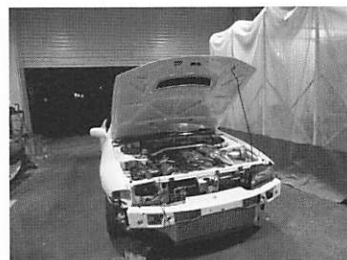
新規事業を立ち上げてみて、改めて本業の保険業が大事な事業だという事に気が付いたそうです。またビジネスチャンスが広がり、新たなお客様との縁ができた

語る山崎氏は、『お客様の困った!』を解決するために、さらに隣接異業種として建築、医療、介護、飲食などの分野への挑戦も考えているとのこと。現実には厳しいけれど夢を語ることは楽しい事でわくわくしてくる、一歩踏み出す勇気が大切な



のだと分かった、「人生に遅すぎるということはない」と締めてくださいました。

(事務局 辻菊江 記)



▲自動車钣金、修理業の新規事業にも挑戦



新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (1/1~2/1)



《会員変更》  
 藤井忠勝  
 (株)エフ広芸  
 東部地区会  
 各種看板製作、デザイン、設計、製作、管理



石田七瀬  
 NANASE (株)  
 川口地区会  
 製造業様向けコンサル、営業、納品代行、製作先のコーディネーター



中村恵美  
 RoomComfort  
 むさし野地区会  
 整理収納、インテリアコーディネーターサービス、セミナー講師



小林元気  
 (株)リスクマネジメント  
 戸田・蕨地区会  
 生命保険、損害保険代理店



志村智  
 (株)志村ホンダ販売  
 むさし野地区会  
 本田技研工業 販売店 新車、中古車販売、リース、車検、点検、整備、修理、損害保険代理店、部品販売等



原田泰僧  
 売れ続けるしくみ研究所  
 中部地区会  
 コピーライティングを用いたチラシ、ポスター、ホームページ製作。集客コンサルティング



吉村静子  
 社会福祉法人 潤青会  
 大宮南地区会  
 高齢者介護、保育事業



今江純子  
 (株)西部総合サービス  
 川越地区会  
 総合管理(清掃、設備、警備、環境衛生等)

● 同友会日誌 1月1日~31日

- 7日(月) さくら幹事会、埼葛幹事会
- 8日(火) 川越幹事会、川口幹事会、大宮東幹事会、西部幹事会、大宮南幹事会、
- 9日(水) ファムミーティング、むさし野幹事会、北部幹事会、中部幹事会、浦和幹事会
- 10日(木) 正副代表理事会議、東部幹事会、戸田・蕨幹事会
- 11日(金) 仕事づくり委員会、経営労働委員会、大宮中央幹事会
- 15日(火) 大宮3地区合同新年例会、障害者雇用推進委員会、東彩幹事会
- 16日(水) 浦和例会、広報委員会
- 17日(木) 戸田・蕨例会、東部例会、北部例会
- 18日(金) 大宮中央例会、第4回委員長会議、中部例会
- 19日(土) 西部例会
- 21日(月) 第3回議案検討プロジェクト会議、東彩例会、さくら賀詞交歓会
- 22日(火) 大宮南例会、川口例会
- 23日(水) 埼玉jobway合同企業説明会③、大宮ブロック会議、埼葛・彩北例会、むさし野例会
- 25日(金) ファム例会、第5回理事会
- 28日(月) 障害者雇用推進委員会、むさし野正副会長会議、彩北幹事会+学習会
- 29日(火) 社員教育委員会
- 30日(水) 青年部幹事会
- 31日(木) 第2回役員選考委員会会議、全研実行委員会

● 会員information

《住所変更》

川越地区会 いいじま司法書士事務所 飯島克仁会員  
 〒354-0035 埼玉県富士見市ふじみ野西  
 1-24-8 さくらビル 303  
 東部地区会 (株)米山メジャメント 米山剛会員  
 〒343-0851 埼玉県越谷市七左町一丁目 16-1

《住所・TEL・FAX 変更》

東部地区会 NEWボックス工芸 小島正会員  
 〒340-0004 埼玉県草加市弁天 5-9-1  
 TEL : 048-934-9780  
 FAX : 048-934-9785

《社名・住所・FAX 変更》

戸田・蕨地区会 長嶋司法書士事務所 長嶋武志会員  
 萩原・長嶋司法書士事務所へ  
 〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田 4-12-16  
 セントラルフォート 105  
 FAX : 048-420-9471

《社名・役職変更》

東部地区会 笑心ほーむ 山田秀明会員  
 (株) 笑心ほーむ 代表取締役へ

会員数

2019年2月6日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	47	大 宮 南	88	北 部	38
戸 田・蕨	53	西 部	43	さ くら	84
浦 和	81	むさし野	125	川 越	85
大 宮 東	41	東 部	132	東 彩	52
大宮中央	37	中 部	50	彩 北	16
		埼 葛	58	計	1030

編集後記

「会員には三つのタイプが見受けられます。同友会に入会したことで企業も経営者も成長する方。同友会でなくとも成長する方。同友会に参加しても変化のない方です。」(円卓より)今回取材した政策プロジェクトチームの景況調査を読み解くことができる方はおそらく「同友会でなくとも成長する方。」なのでしょう。景況調査は、ある出来事が、ほとんど関係のないことに影響を及ぼす、思いもよらない結果になる「風が吹けば桶屋が儲かる」的な役割をしている訳だから情報を精査する事に長けている方なのでしょう。情報を精査するという事が、今後の企業と経営者成長のキーワードになると思います。(浦和地区会 酒井 啓 記)



## 「線一本一本に思いをこめて=顧客のための、社会のための、構造設計



構造設計について語る三浦氏



## 三浦 智和

みうら ともかず

(株)TOM  
 東部地区会  
 埼玉県越谷市袋山1459-1  
 マイキャッスル越谷214  
 TEL:048-940-5907  
 FAX:048-940-5908

の話を聞き、いろいろとアドバイスももらいました。特に、同業の先輩経営者の言葉から多くのことを学びました。他県の研修会に参加した時は、「三浦智和です」と言うと、すぐに名前を覚えてもらえたそうで「有名俳優と同姓同名(字は違いますが)の強みを活かしました」と笑います。

そして2018年、経営指針セミナーに満を持して参加しました。「そこで得られたものは大きかったですが、何より大きな収穫は、会社は誰のものか?個人のものでなく、社会のものであると気づけたこと。迷ったときの判断基準として、まずそこを軸に考えることができるようになりました。建築物の安全のため、住む人の安心のためにある構造設計の役割に気づいたとき、ぶれない軸という大きな宝物を手に入れたのです」。

現在も昼も夜もなく、ひたすら構造設計に没頭する毎日。便利な計算ソフトができ、昔に比べたら、驚異的な短時間で設計できるそうですが、集中の度合いは変わりません。また山あり谷ありの受注状況からの脱却は、大きな課題です。そのためにも、2×4住宅のリフォームをメインに、構造設計というニッチな市場を開拓していきたいと考えています。

## 〈癒しは家族との釣り、趣味は卓球〉

三浦さんには二人の幼いお嬢さんがいます。奥さんやお嬢さんと一緒に、釣りに行くのが、最大の楽しみであり癒しの時間だそうです。餌をつけ子供たちが釣り上げた魚を針からはずし捌くのが、三浦パパの役目だそうです。

高校は卓球の強豪校でもあり、中学高校は卓球三昧の日々。でも、最近何十年ぶりかでラケットを握ったら、小学生にも敵わなかったそうです。「せめて、お嬢さんたちに教えられるぐらいまで、力を戻すのが今の願いですね」。



釣った魚に大喜び!!

構造設計は建物の骨組みの設計です。目には見えないけれど、地震や台風などに対する安全性を満たすための重要な設計です。

そんな構造設計に携わる三浦さん、確かな専門性と顧客や社会に対する誠実な姿勢が大きな魅力です。今後のご活躍に注目していきたいと思います。(東部地区会 宇野碧留 記)

入会以来、地区会の幹事はもとより、全研の委員や他県の研修会にも積極的に参加されています。経営指針セミナーでは、仕事についての考えに大きな軸ができたと話されます。飾らない人柄の三浦さんにお話を伺いました。

## 〈父の工務店を継ぐことが当たり前〉

秋田県で生まれ育った三浦さん。小さい頃から、父親が営む工務店を継ぐことが当たり前だと思っていたそうです。工業高校の建築科を卒業し、山形県内の設計建築専門の短期大学校に進みました。この短大は山の頂上にあつたそうで「近くのコンビニに行くにも、車で25分もかかるし、冬になると雪に閉ざされてしまう…。熊に遭遇することもあったのですよ! 学業に専念せざるを得ない環境の中、共に学んだ仲間がかけがえがなく、一生付き合っていきたいですね」と懐かしそうに語ります。

思い出多き短期大学校を卒業された三浦さんは、その後修行のため埼玉県内の建設会社に就職しました。

## 〈構造設計に出会ったサラリーマン時代〉

建設会社で、何年か勤務した後は秋田に帰るつもりでしたが、秋田には新築住宅の需要があまりなく、父の会社を継いで特に何をしたいという考えも浮かびませんでした。

会社では構造設計部門という、社内の新規部門を任せられ、必死に学びながら、知識も増やしていきました。(構造設計とは、建物の骨組みの設計の事。壁や梁の性能や形状、配置を決定するそうです)

お世話になっていた先輩が定年退職した後、職場の雰囲気も微妙に変わり、三浦さんは独立を考えるようになりました。すでに、職場で知り合った奥様と結婚され、埼玉に腰を落ち着けようという将来設計にシフトをきったのでした。

## 〈独立と同友会との出会い〉

同友会会員であった友人に紹介され、2016年に入会后、経営夜話や懇親会で、先輩経営者

埼玉同友会  
広報委員

委員長 藤元天美	委員 川口 高倉光俊	大宮東 安形智昭	むさし野 劉田友枝	北 部 東 禎章	制作担当 柘込博久
副委員長 酒井 啓	委員 戸田・藤 石井孝徳	大宮中央 鈴木光義	東 部 宇野碧留	さくら 池田恵津子	印刷・製本 加藤早苗
小林吉文	浦 和 三友哲哉	大宮南 加藤早苗	中 部 矢澤敦臣	川 越 小田 明	事務局 古川佳子
鈴木一朗	大森靖之	西 部 印牧政彦	中 部 中山晴喜	東 部 若林清治	
		南 栄一	埼 葛 松本賢二		